

末崎町の歴史

平成 28 年 1 月 11 日(月・祝)

「居場所ハウス」

- 1 末崎町の歴史年表
- 2 末崎町の神社・石碑等について
 - (1) 末崎町の神社・石碑等の数
 - (2) 建立年代
 - (3) 江戸時代の暦・時計等
 - (4) 庚申待塔
 - (5) 己巳待塔
 - (6) 甲子待塔
- 3 末崎の城(館)について
 - (1) 館の場所
 - (2) 年代
 - (3) 城主
 - (4) 末裔
- 4 中吉丸漂流記について
 - (1) 漂流事件の概要
 - (2) 末崎町との関わり
 - (3) 記念碑等
 - (4) 漂着した島と世話した島民
- 5 末崎の採金跡について
 - (1) 気仙の産金の概要
 - (2) 金の種類と採取方法
 - (3) 末崎町の採金跡
 - (4) 御本判
 - (5) 採金の年代
- 6 その他

末崎町の歴史年表

1 石器時代

時代年号	(西暦)	記	事
旧石器時代	(前約1万5千年～1万年)		基石遺跡

2 縄文時代 (前1万年～前300年)

縄文前期	(前4千年～3千年)	峯岸遺跡・内田遺跡
縄文中期	(前3千年～2千年)	細浦上の山貝塚・峯岸遺跡・内田貝塚
縄文後期	(前2千年～1千年)	細浦上の山貝塚・小細浦貝塚
縄文晩期	(前1千年～3百年)	細浦上の山貝塚・名越貝塚(山根)・小細浦貝塚

3 弥生時代

弥生時代 (約前300年～後200年)

4 古墳時代

古墳時代 (約200年～600年)

5 飛鳥・奈良時代 (600年～794年)

神亀1年(724) 宮城県に多賀城を設置し、国府と鎮守府を置く
天平21年(749) 陸奥国小田郡で黄金が産出し、黄金900両を献上
天平勝宝2年(752) 東大寺大仏開眼供養会

6 平安時代 (794年～1192年)

延暦21年(802) 岩手県の胆沢に鎮守府を移転
大同2年(807) 坂上田村麿が矢作の熊井、小友の早虎、猪川の金猪(犬)を討ち、三か所に十一面観音像を祀る
貞観13年(871) 阿部兵庫允為雄気仙郡司に任じられ、金氏を賜り横田村に住す
承安年間(1171～74) 藤原秀衡、平泉に堂塔居館を造るため、気仙郡垂氷山から材木を運ぶ
安元1年(1175) 平重盛、気仙郡を領地し、金1,300両を貢納させ、宋の育王山に贈る
文治5年(1189) 平泉藤原氏、源頼朝に亡ぼされる
建久1年(1190) 源頼朝の家臣、葛西清重が平泉の検非違使所管領となる
建久2年(1191) 末崎村神坂 熊野神社創建?

7 鎌倉・室町時代 (1192年～1573年)

- 寛元4年～康元1年(1246～1256) 北条時頼の時代、末崎の麻腐れ島に御輿や宝物を積んだ船漂着、中森熊野神社創建？(大船渡市史)
- 文永1年(1264) 末崎の麻腐れ島に御輿や宝物を積んだ船漂着、中森熊野神社創建
- 正和4年(1315) 千葉次郎太夫広胤、気仙郡に所領を得て矢作郷に移住、気仙千葉党の始祖となる。長男重胤が鶴崎館に居住し矢作氏を名乗る
- 永享1年(1429) 麟祥寺の元寺、瑞光山祥雲寺が開かれる
- 文安3年(1446) 末崎城(西館)築城？(山田東助説)
- 文明11年(1479) 末崎城(西館)築城？(小友及川氏の系図に、及川伊予守頼清が文明11年に、61歳で末崎城で亡くなった、という記録あり。)
- 文明17年(1485) この前後に末崎城の武田太郎信義が、城主となったものと思われる。大船渡市史(通史P198)

8 安土・桃山・江戸時代 (1573年～1868年)

- 天正2年(1574) 細浦長源寺、僧宥信が創建
- 天正4年(1576) 麟祥寺開山、梅天大和尚没との記録あり。
- 天正18～19年(1590～91) 深谷の役起る。気仙郡、伊達政宗の所領となる。
秀吉の奥州仕置で末崎城を始め気仙の城のほとんどが亡びる
- 文禄1年(1592) 白井淡路、気仙大肝入となる
- 文禄2年(1593) 玉山の西光寺、船河原に移る
- 慶長5年(1600) 気仙36騎、刈田郡白石に出陣する。
- 慶長9年(1604) 気仙郡内に一里塚を築造。(丸森の一里塚は1610年頃？)
- 慶長16年(1611) セバスチャン・ビスカイノ三陸沿岸を探検する
- 寛永12年(1635) 岩手県で最古の庚申塔(水沢市)
- 寛永年間(1624～1643) 末崎村肝入、長蔵の記録あり。
- 寛永18・19年(1641～42) 末崎村肝入、正右衛門の記録あり。(門ノ浜「東沢」ひがさ)
- 寛永18年(1641) 泊里熊野神社修理(気仙最古の棟札確認、渡辺兼雄氏)
- 寛永19年(1642) 寛永の本地検地の記録あり
この頃、船河原「南の大屋・金右衛門」切通しの工事を行う。？
- 萬治1年(1658) 岩手県で2番目に古い庚申塔(三陸町綾里・秋葉神社境内)
- 寛文6年(1666) 長蔵、本判肝入の記録あり。松坂家文書。(内田、「しも」の先祖か？)
- 延宝8年(1680) 岩手県で5・6番目に古い庚申塔(三陸町綾里平館・野形)
- 貞享3年(1686) 中森の神明神社の棟札あり。別当は本寺の大屋・大和田太一氏(故人)
- 元禄3年(1690) 末崎村御本判納額の記録あり。
- 元禄16年(1703) 末崎村肝入、治郎兵衛の記録あり。(細浦の大屋)

宝永2年(1705) 細浦の松島に、松島神社が建立される。(龍神の宮)

宝永5年(1708) 末崎町で最古、岩手県で34番目に古い「庚申供養碑」細浦長源寺の旧登り口。

宝永6年(1709) 細浦の松島に、金山沢2代目清兵衛が金華山より弁才天を勧請する

享保4年(1719) 泊里、八幡神社の建て替えの棟札あり。

享保8年(1723) 末崎村肝入、伊三郎の記録あり

享保8年(1723) 伊達吉村公、気仙郡に出駕。今泉村天神宮社頭で、泊里熊野神社の宝物を上覧、仙台藩筆頭祐筆、伊籐宮内の奉書が現存。

享保12年(1727) 末崎町で最古の「地藏尊像」、通岡峠。

門ノ浜「新山権現」勧請？(享保12年の棟札あり)

享保10年(1725) 末崎村肝入、新右衛門の記録あり

享保17年(1732) 末崎村肝入、清五郎の記録あり。(峯岸「かし」?)

享保18年(1733) 泊里熊野神社遷宮。

延享2年頃(1745) 末崎村肝入、善十郎の記録あり。(内田「大内田」)

寶暦9年頃(1759) 末崎村肝入、善十郎の記録あり。(内田「大内田」)

寶暦10年頃(1760) 末崎村肝入、又太郎の記録あり。(沢内「大前」)

寶暦年間(1751~1763) 平はしご虎舞、獅子頭から虎頭となる。

明和3年頃(1766) 末崎村肝入、武左衛門の記録あり

明和4・5年頃(1767~68) 末崎村肝入、善十郎の記録あり。(内田「大内田」)

明和4年(1767) 末崎町で最古の「巳待供養碑」、細浦長源寺の旧登り口。

安永6年(1777) 末崎村肝入、利四郎の記録あり。(三十刈「後神」)

安永7年(1778) 末崎町で最古の「山岳信仰碑(愛宕山)」、中森熊野神社境内。

天明1年(1781) 末崎村肝入、七五郎の記録あり。(門ノ浜「上船本」?)

天明4年(1784) 末崎村肝入、七五郎の記録あり。(門ノ浜「上船本」?)

寛政2年頃(1790) 末崎村肝入、近藤治兵衛の記録あり。(細浦「大屋」)

寛政6年頃(1794) 中森熊野神社境内に、熊野三社碑建立

享和1年頃(1801) 末崎村肝入、治五兵衛の記録あり。(沢内「大前」)

伊能忠敬が海岸測量のため気仙郡に来訪。

文化1年(1804) 末崎村の神職、宮崎居乗が寺小屋を始める。

文化3~5年頃(1806~09) 末崎村肝入、覚松の記録あり。(金山沢)

文化6年頃(1809) 末崎村肝入、治右衛門の記録あり。(細浦「大屋」)

文化7年頃(1810) 末崎村肝入、治郎兵衛の記録あり。(細浦「大屋」)

文化11年(1814) 山根「牛頭天王社」建立。別当山中克輔

文化13年(1816) 碁石岬に松の植樹が始められる

文政1年(1818) 末崎町で最古の「馬頭観世音碑」、神坂熊野神社境内。

文政3年(1820) 末崎町で最古の「山神碑」、西館三叉路付近。

文政6年(1823)末崎町で最古の「金毘羅大権現碑」、泊里八幡神社境内。

文政7年頃(1824)末崎村肝入、治左衛門の記録あり。(細浦「大屋」)。顕彰碑、熊野神社境内にあり。

文政8年(1825)麟祥寺が焼失

文政10年(1830)西国・坂東・秩父・四国188番石碑。小田、愛宕神社登り口辺り。

天保年間(1830~1843)末崎村肝入、滝田清太夫の記録あり。(金山沢)

天保10年(1839)気仙郡小友村の及川庄兵衛所有の五十集船中吉丸、那珂湊へ向かう途中遭難。小笠原に漂着、1年3ヶ月後無事帰村。

天保11年(1840)念仏七百萬遍碑建立。神坂熊野神社カヤの木の下。「中吉丸」関連碑。

天保12年(1841)館が崎「金毘羅神社」、勧請。別当新沼眞作(内田「しも」)

天保15年(1844)小中井「寶龍神社」勧請。別当佐々木清一(小中井「大屋」)

船河原「雷神社」建立。別当村上家(「大前」)。現在は地域で管理。

安政5年(1858)西館、オカネズカに「甲子供養碑」建立。

文久2年(1861)西館、館の鼻に「西宮大神宮黄碑」建立。管理者熊上真(三十刈「後上」)

9 東京時代(1868年~現在)

明治2年1月~4年4月(1869~71)末崎村庄屋、近藤善藏の記録あり。(大内田)

明治3年(1870)平民の苗字許される。7月、肝入は庄屋、12月、庄屋は村長と呼び名が変わる。

明治4年4月~5年8月(1871~72)末崎村長、近藤善藏の記録あり。(大内田)

明治5年(1872)壬申戸籍編成。この頃、県の区域、郡の区域がころころ変わる。

明治6年(1873)学制の頒布により、本校を小細浦に、分校を泊里に設置

明治8年(1875)平民に苗字を必ず称さす

明治10年(1877)船河原「松倉神社」勧請。別当熊谷富雄(「松倉」「ウシヨ」)

梅神の細川八百蔵自費で、峯岸の切通し工事を施行。

明治12年1月~明治17年8月(1879~1884)村独立時代。戸長、菅原梅吉(小細浦「山岸」)

明治14年(1881)末崎町で最古の「駒形神社碑」、神坂熊野神社境内。

明治20年(1887)末崎小学校、小細浦本校・泊里分校を併合して字鶴巻に校舎を新築して
村立末崎尋常小学校と改称する。

明治22年5月~29年(1891~1896)町村制実施以後。末崎村長、菅原梅吉の記録あり。

明治23年(1890)この頃から水眼鏡(水鏡・箱眼鏡)の使用が始まる。小漁が盛んになる。

明治25年(1892)県の規則で水眼鏡の使用が禁止される。

明治27年(1894)日清戦争始まる

明治29年(1896)三陸地域に大津波来襲。末崎村の死者・行方不明者676人。

明治30年(1897)末崎村長、菊池順治の記録あり。(門ノ浜「東沢」)

明治 30 年 8 月 (1897) 末崎村長、菅原仁の記録あり。
明治 30 年 11 月 (1897) 水眼鏡の使用禁止が解除される。
明治 31 年 9 月～34 年 (1898～1900) 末崎村長、菅原梅吉の記録あり
明治 32 年 (1899) 世田米外 10 ヶ町村で赤痢流行、末崎村で 35 人死亡。泊里麟祥寺境内
に弔魂碑あり。
明治 33 年 (1900) 石川啄木気仙に来遊
明治 34 年 (1901) 末崎村長、小松門太郎の記録あり。(門ノ浜「こがら」)
気仙地域でまた、赤痢流行。
明治 35 年～37 年 (1902～04) 末崎村長、菅原源作の記録あり。
明治 37 年 (1904) 日露戦争始まる
明治 38 年 (1905) 末崎村長、菅原梅吉の記録あり。碁石公園に桜を植栽。
明治 42 年 (1909) 末崎村長、山本周太郎の記録あり。細浦郵便局の設立。
大正 5 年 (1916) 日頃市に鷹生発電所が竣工。気仙に電灯が点灯
大正 7 年 (1918) 末崎小学校教員住宅より出火、校舎まで全焼。小細浦まで飛び火する。
大正 9 年 (1920) 末崎尋常小学校再建、開校式。
大正 13 年 (1924) 箱根山神社建立。施主、中野滝田留作等。現在、平地域で管理。
昭和 8 年 (1933) 国鉄大船渡線細浦まで開通。三陸地域に大津波来襲。末崎村の死者・行
方不明者 39 人。
昭和 12 年 (1937) 碁石海岸、国指定名勝・天然記念物に指定。日中戦争始まる。
昭和 16 年 (1941) 太平洋戦争始まる
昭和 20 年 (1945) 太平洋戦争終わる
大船渡町の商船「富久丸」漂流、末崎町の乗組員 2 人も、40 日後無事帰宅。
昭和 27 年 (1952) 大船渡市市制施行。大船渡市末崎町となる。
昭和 28 年 (1953) NHKテレビ放送開始
昭和 29 年 (1954) 小松藤蔵氏、ワカメ養殖試験開始。
昭和 30 年 (1955) 碁石松林植栽顕彰碑建立。末崎財産管理委員会。
昭和 32 年 (1957) 市営球場が末崎町に完成
昭和 33 年 (1958) 碁石岬に灯台竣工。末崎町に誘致された、東北製塩科学工業創業開始。
末崎町にテレビ 1 台設置。
昭和 35 年 (1960) チリ地震津波来襲。
昭和 39 年 (1964) 東北製塩大船渡工場が経営不振で閉鎖。末崎保育園落成。
昭和 42 年 (1967) 大船渡湾口防波堤竣工
昭和 54 年 (1979) 岩手県南部栽培漁業センター業務開始。
平成 23 年 (2011) 東日本大震災

末崎町の神仏等の数

神 社 名	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
	泊 里	神坂小細浦	門中西館	船河原	中野 平	山根三十刈 刈基石	峯岸 内田 細浦	小田梅神 小河原	
天照大神・神明様・御伊勢様	1	2	1	2			1		7
熊野神社	1	1	3			1			6
愛宕神社	1							1	2
八幡神社			3		1			1	5
稲荷神社		1	10	2	6	12	5	9	52
(稲荷系)		イワクラ 稲荷	大閩稲荷 イボ神様	知識大明神			知識明神 宇気母智	三吉稲荷	
御天王様・牛頭天王	1	1	1			1			4
駒形神社	1	3	2					1	7
新山神社			1						1
巖島神社・弁天様						1	1		2
出羽三山	1	2			1				4
月山・月読命(尊)				1	1	1			3
伊吹山			2						2
古峯山	1			1				2	4
三峯神社			2						2
大山石尊				1					1
金毘羅様・金刀比羅神社	3	4		2	1	1	1	3	15
山の神・大山祇神	1	2	2	4	1		1	2	13
天神様・天満宮		1	1						2
恵比寿様・西宮大神		1	5			1		1	8
水神・井戸神様	1		2		2			4	9
雷神様				1	1				2
沼之神			1					1	2
八大龍神・寶龍権現・龍王講	3		3		1	1			8
大黒様			2						2
諸 神	秋葉山	太鬼之神	氷上神社	松倉神社	石神様	春日神社	白神社	屋敷神	19
	鳥海山	大天狗	黒崎神社	少名彦神社			早池峰山	聖徳太子	
	稲倉魂神社		三方火神	草野比売			座敷地明神	道祖神	
神社名不明			7		3	2	1		13
小 計	43	21	53	18	19	22	15	29	195

	石 仏 名	1	2	3	4	5	6	7	8	合計	
		泊 里	神坂小細浦	門中西館	船河原	中野 平	山根三十 刈基石	峯岸 内田 細浦	小田梅神 小河原		
仏 様 系	庚申塔(庚申待・庚申供養)	2	1	7	1	6		4	6	27	
	庚申・己巳供養・			2	2	6	1	2	2	15	
	巳待 (己巳待・弁財天)			1	1	2		2		6	
	甲子塔(甲子待)			1						1	
	薬師如来				1					1	
	馬頭観音・馬頭明王		2	4		1		1	1	9	
	聖観音・観世音	3			2			1	1	7	
	地藏	4		1	6	2		2		15	
	六地藏			1	1			1		3	
	不動明王(成田山)		2	1	1		1			5	
	板碑(梵字・種子)			5	1					6	
	一字一石塔	2	2							4	
	念仏供養塔(百萬遍、七百萬)	3						1		4	
	愛染明王	1		1				1		3	
	供養碑	魚霊供養碑		猫供養						2	
	忠魂碑・弔魂碑	2	2							4	
	慰霊塔 供養塔	2	1				2	3	1	9	
	寺院等	麟祥寺						長源寺		2	
	諸石碑	経塚					法華塔	墳龜銘	巡礼碑	4	
	判読不能石碑			4		3		2	7	16	
市史、山田にあるも確認できない石碑	6			3	1		4		14		
小 計	28	10	29	19	22	4	26	19	157		
記 念 碑 等	記念碑	5	1		2	3	2			13	
	顕彰碑	3	1			1	3			8	
	追分碑・道標、一里塚			1	2				1	4	
	歌碑						2			2	
	名勝、天然記念物等	三面椿		角岩岩脈			基石海岸			3	
	津波襲来標識	3	1	2	2		1	4	3	16	
	城、館跡	東館	神坂館	西館		中野館				4	
	文化財等	県指定	市指定				市指定	市指定		4	
	その他	泊里濱の図		鷹取山		箱根山					3
					産金遺跡			産金遺跡	産金遺跡	3	
小 計	15	5	6	7	6	10	6	5	60		
合 計	86	36	88	44	47	36	47	53	412		

干支

中国や東アジアの漢字文化圏において、年・月・日・時刻およびことがらに用いられた表記方法。干支は「十干」および「十二支」を合わせた「六十干支」の意味で、「え」ともいう。この暦法は殷(いん)代に始まり、漢代には日順だけでなく年月日刻などに使われるようになった。が、暦法の進歩とともに順序表記としての、役割(特に月日)は教訓に変わり、新たに陰陽五行説と結びつき、吉凶や縁起に使われるようになった。十二支には読み方のほか、当時の時刻の表示と現在の時刻を示した。

十干

1	甲	きのえ	コウ
2	乙	きのと	オウ
3	丙	きのえ	ヒ
4	丁	きのと	ヘ
5	戊	つちのえ	テ
6	己	つちのえ	チ
7	庚	かのえ	ポ
8	辛	かのと	キ
9	壬	みずのえ	コ
10	癸	みずのと	シ

え	兄	かゝり、若(わか)
と	弟	木の
え	兄	あしがら、
と	弟	火の
え	兄	あたま、さかん
と	弟	えがる、げ
え	兄	土の
と	弟	ちの(ち)
え	兄	と、道、楽(たのしみ)
と	弟	金の
え	兄	つゝい、からい
と	弟	はるか、大きい、
え	兄	水の
と	弟	ほこ、

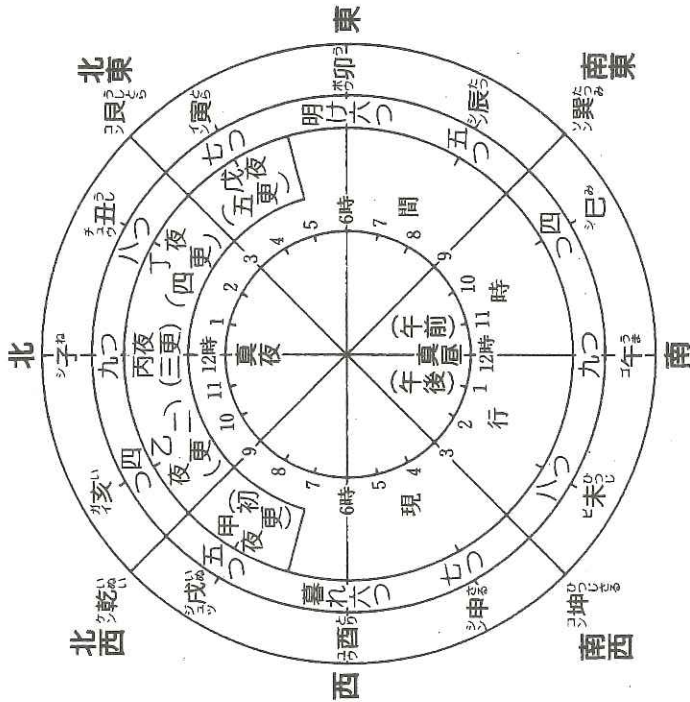
十二支

子	ね	0時頃
丑	り	(夜半)
寅	チュウ	2時頃
卯	と	(鶏鳴)
辰	イ	4時頃
巳	ウ	(平旦)
午	ボウ	6時頃
未	た	(日出)
申	ツ	8時頃
酉	シ	(食時)
戌	ミ	10時頃
亥	ウ	(禺中)
	マ	12時頃
	ゴ	(日中)
	ツ	14時頃
	ビ	(日昃)
	シ	16時頃
	リ	(晡時)
	ユ	18時頃
	ウ	(日入)
	ぬ	20時頃
	ジュツ	(黄昏)
	ガイ	22時頃
	イ	(人定)

六十干支順位表

1	甲子	きのえ	ね	0
2	乙丑	きのと	り	1
3	丙寅	きのえ	チュウ	2
4	丁卯	きのと	と	3
5	戊辰	つちのえ	ウ	4
6	己巳	つちのえ	た	5
7	庚午	かのえ	ボウ	6
8	辛未	かのと	た	7
9	壬申	みずのえ	ツ	8
10	癸酉	みずのと	シ	9
11	甲戌	きのえ	ミ	10
12	乙亥	きのと	ウ	11
13	丙子	きのえ	ネ	12
14	丁丑	きのと	リ	1
15	戊寅	つちのえ	チュウ	2
16	己卯	つちのえ	ト	3
17	庚辰	かのえ	ウ	4
18	辛巳	かのと	タ	5
19	壬午	みずのえ	ボウ	6
20	癸未	みずのと	タ	7
21	甲申	きのえ	ツ	8
22	乙酉	きのと	シ	9
23	丙戌	きのえ	ミ	10
24	丁亥	きのと	ウ	11
25	戊子	つちのえ	ネ	12
26	己丑	つちのえ	リ	1
27	庚寅	かのえ	チュウ	2
28	辛卯	かのと	ト	3
29	壬辰	みずのえ	ウ	4
30	癸巳	みずのと	タ	5
31	甲午	きのえ	ボウ	6
32	乙未	きのと	タ	7
33	丙申	きのえ	ツ	8
34	丁酉	きのと	シ	9
35	戊戌	つちのえ	ミ	10
36	己亥	つちのえ	ウ	11
37	庚子	かのえ	ネ	12
38	辛丑	かのと	リ	1
39	壬寅	みずのえ	チュウ	2
40	癸卯	みずのと	ト	3
41	甲辰	きのえ	ウ	4
42	乙巳	きのと	タ	5
43	丙午	きのえ	ボウ	6
44	丁未	きのと	タ	7
45	戊申	つちのえ	ツ	8
46	己酉	つちのえ	シ	9
47	庚戌	かのえ	ミ	10
48	辛亥	かのと	ウ	11
49	壬子	みずのえ	ネ	12
50	癸丑	みずのと	リ	1
51	甲寅	きのえ	チュウ	2
52	乙卯	きのと	ト	3
53	丙辰	きのえ	ウ	4
54	丁巳	きのと	タ	5
55	戊午	つちのえ	ボウ	6
56	己未	つちのえ	タ	7
57	庚申	かのえ	ツ	8
58	辛酉	かのと	シ	9
59	壬戌	みずのえ	ミ	10
60	癸亥	みずのと	ウ	11

方位・時刻表(定時法)



[江戸時代 不定時法]

12時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏至												
春分												
秋分												
冬至												
	明	朝	朝	暮	夕	夜	夜	夜	明	明	明	明
	け	四	五	れ	七	四	五	四	け	け	け	け
	九	つ	つ	六	つ	つ	つ	つ	九	九	九	九
	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ

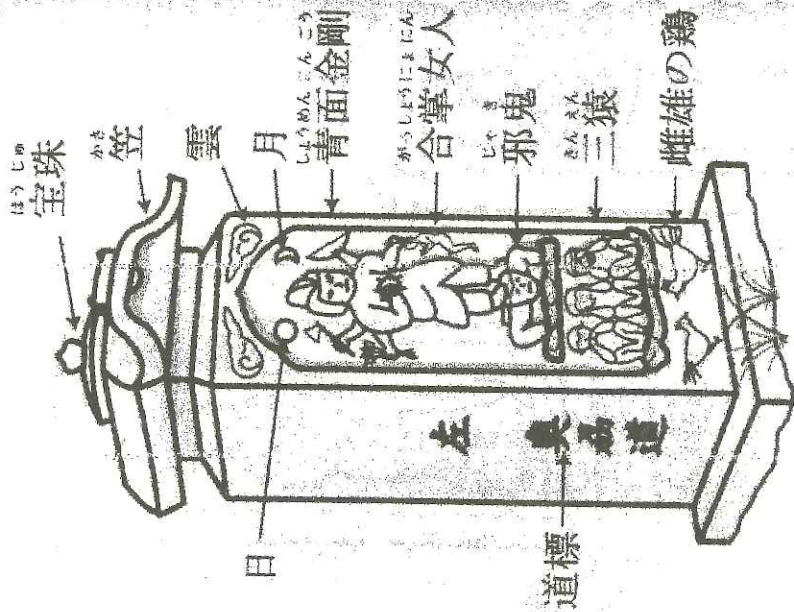
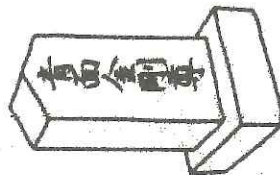
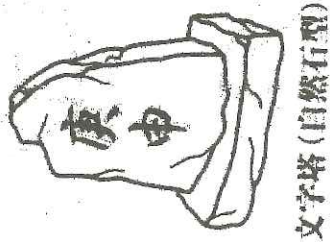
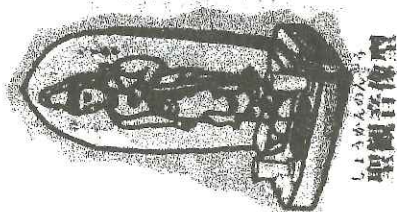
※江戸時代には、定時法のほかに民間では不定時法が行なわれていた。不定時法は、夜明けと日暮れを境にして昼・夜をそれぞれ六等分したものであり、季節によって時刻の長さに変動があった。上に掲げた表は夏至(げし)・春分・秋分・冬至(とうじ)の時刻を例示したものである。

路傍の神仏

庚申塔

日本全国に約100万本見られる
 「庚申」の庚申の晩に具まじり
 夜な明かす石の祈念碑

道教の「三尸説」を基にした
 日本独特の民間信仰



● 典型的な青面金剛像型と各部の名称
 青面金剛は忿怒相(怒りの形相)で、六臂(腕が6本)に武器などを持つのが一般的。合掌女人(シヨケケラともいう)の髻を握ってぶら下げる。庚申の晩の男女同族は禁忌事項。これを冒せば、子はどろぼうになる。そこで女性を懲らしめる姿を、象徴的に描くとされる。鶏を配すのは雞鳴または翌日の辛酉の日に待つのだ。

中吉丸漂流記説明資料

中吉丸漂流記

金毘羅大権現碑・船玉碑移設の由来

天保十年（一八三九）十一月十五日、小友村から五十集荷物を積んだ中吉丸が乗組員六人で常州那珂湊（現在の茨城県ひたちなか市）へ出発、航海途中で大風に遭い、漂流三十五日のすえ小笠原諸島父島に漂着。島の人々の世話を受け、約二ヶ月後の天保十一年三月二十四日に現在の千葉県銚子湊に着くことができたそうです。

その後、江戸での九ヶ月に及ぶ取り調べを受け、天保十二年二月五日に全員が帰村いたしました。この碑は漂流中の助命を祈願した船玉様のご加護に感謝し、当時の船頭であった臼井三之丞が、広田町天王前の自宅の傍らに建立したものです。

しかし、この船玉碑は平成二十三年三月十一日の大津波により流到され、歴史上後世に残る貴重な証として、関係者のご協力とご支援により、この地黒崎神社境内の一角に移設したものです。

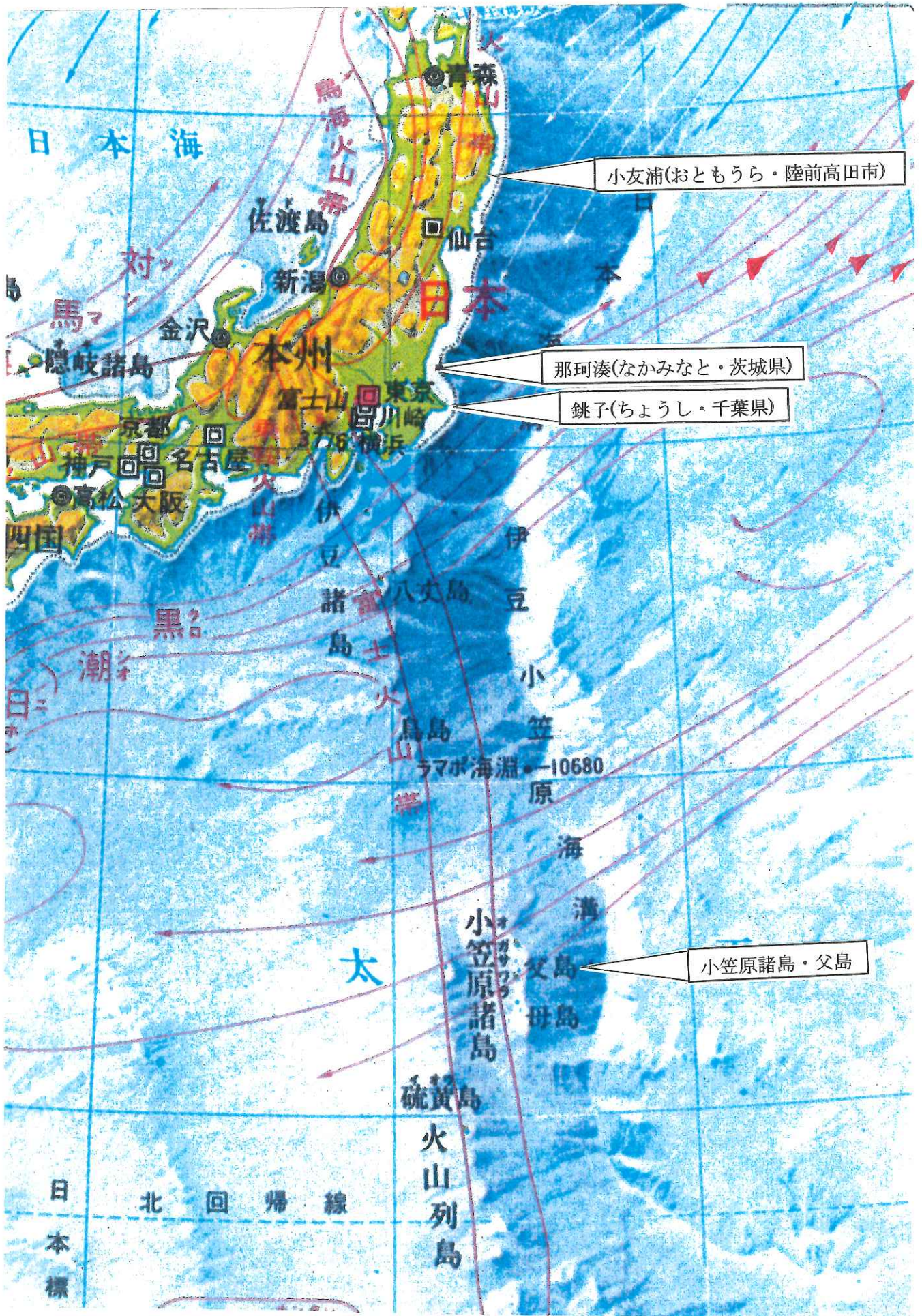
平成二十四年一月吉日

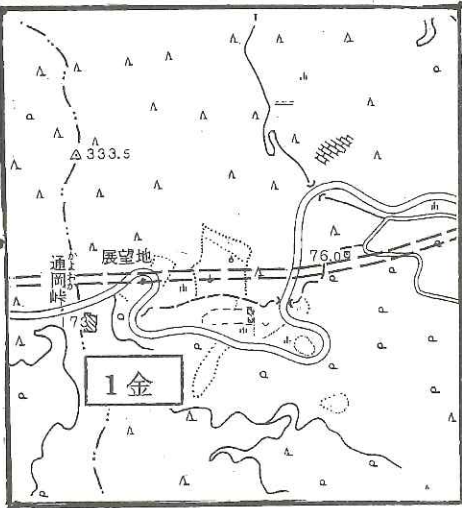
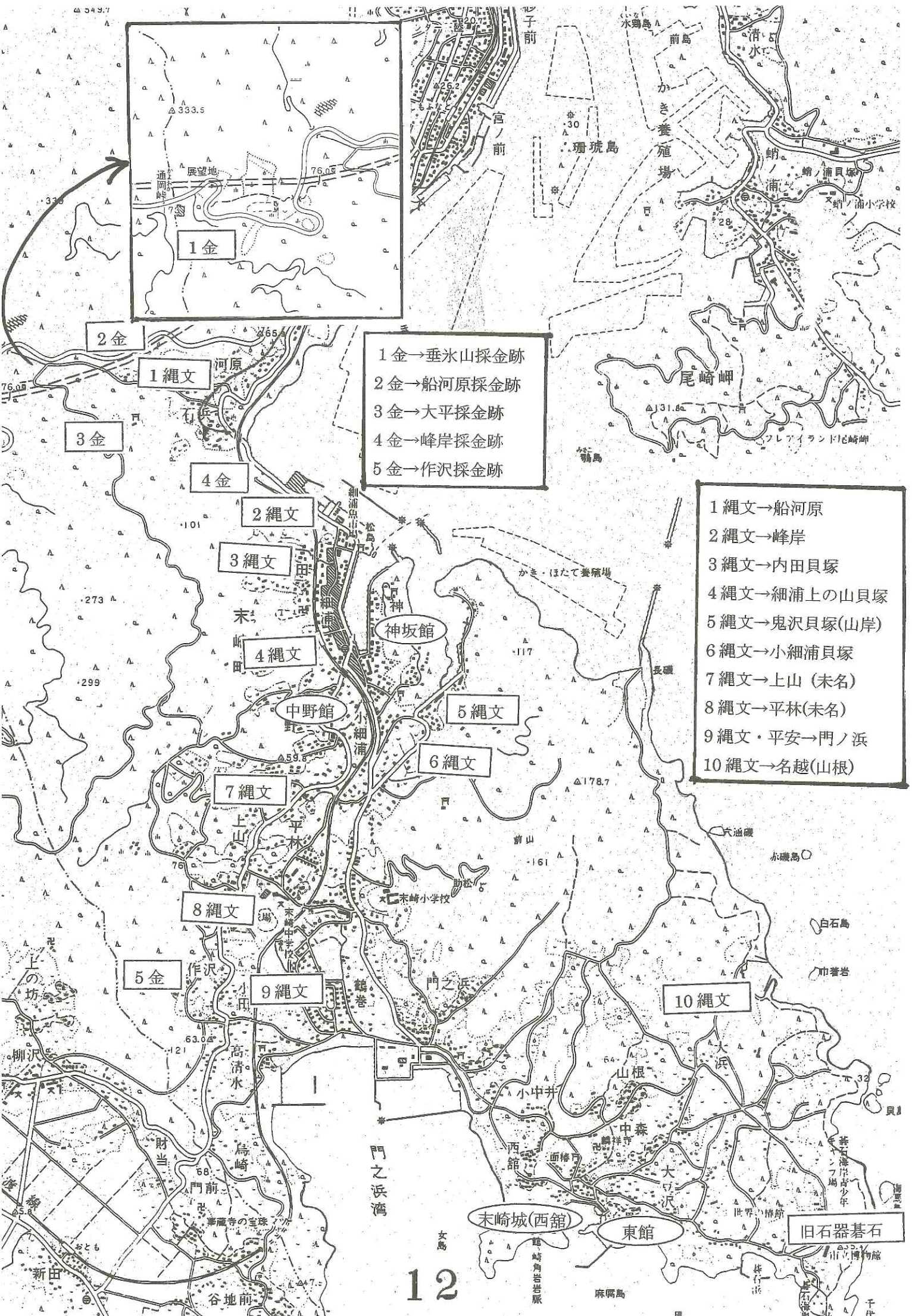
移設発起人

船玉碑 施主子孫	神奈川県三浦市	臼井悦男
金刀比羅神社 当主	広田町前花貝	砂田カホ子
船玉碑 移設世話人	広田町前花貝	砂田信

協賛

中吉丸船主庄兵衛の子孫	小友町茗荷	及川庄八郎
全 舵取雄治の子孫	米崎町堂の前	鈴木敬一
全 水主和吉の子孫	小友町中西	上野文雄
全 水主徳松の子孫	末崎町西館	大和田タミ子
船玉碑施主臼井家親族	広田町大久保	浅野行弘
全	広田町大久保	村上秀市
全	越喜来所通	葛西祥也
全	赤崎町大洞	佐々木一雄
黒崎神社総代長	広田町大陽	津田賀一
広田湾漁業協同組合	代表理事組合長	佐々木 賤
金刀比羅神社氏子		砂田家親類一同





- 1金 → 垂氷山採金跡
- 2金 → 船河原採金跡
- 3金 → 大平採金跡
- 4金 → 峰岸採金跡
- 5金 → 作沢採金跡

- 1縄文 → 船河原
- 2縄文 → 峰岸
- 3縄文 → 内田貝塚
- 4縄文 → 細浦上の山貝塚
- 5縄文 → 鬼沢貝塚(山岸)
- 6縄文 → 小細浦貝塚
- 7縄文 → 上山(未名)
- 8縄文 → 平林(未名)
- 9縄文・平安 → 門ノ浜
- 10縄文 → 名越(山根)

末崎町の歴史 説明資料



細浦長源寺旧登り口の左、宝永五年(1708)の庚申塔、旧市内では1番古い



広田町泊の庚申塔



神坂熊野神社、カヤの木の下、念仏七百萬遍供養碑



西館「末崎城跡」(西館跡・古館)



広田町黒崎神社境内、中吉丸船頭が建立した船玉碑・金毘羅大権現碑



峰岸、採金場跡にある「おかくら様」